

# "わがまち学ぼう"・史跡めぐり

伝統の酒造りと寺内町のまち  
"富田"

小寺池図書館

オアシス小寺池

清蓮寺

酒蔵

筒井池公園

教行寺

本照寺

普門寺

三輪神社

主催：  
わがまち学ぼう事業実行委員会

構成団体：高槻市文化財スタッフの会  
高槻歴史散歩―槻歩クラブ  
ボランティアグループV G 槻輪  
協力：高槻市、高槻市教育委員会

# 伝統の酒造りと寺内町のまち "富田"

## 富田の名前の由来

高槻市の富田は、富田史談によれば律令制以前の天皇家の御料田である屯倉（ミカケ）が富田に置かれており、その役所である屯家（トンカ）が音便変化してトンダとなったともいわれています。

## 富田の寺内町

弥生時代以前よりの台地であり、富田の地名は「屯田（とんでん）」（律令制以前の天皇家の御料田）がこの地に存在したことに由来するとされています。

平安時代、藤原師輔から息子尋禅に譲られた荘園の中に「富田荘」が見られます。後に天台座主となった尋禅によって比叡山延暦寺領に編入されました。後の戦乱で支配権が転々としたらしく、室町時代前期には室町幕府の直轄領となっており、臨濟宗普門寺が創建されました。

足利義満は妻の実家日野家の日野有光を同荘の代官に任じており、また、同家との関係の深い浄土真宗本願寺7世存如が光照寺（現在の本照寺）を創建しました。

寛正の法難で延暦寺によって大谷本願寺を破却された本願寺8世蓮如を宥めるために管領細川勝元がこの地に寺地を与えて京都から立ち退かせようとしたが、蓮如が間もなく吉崎御坊に向かったために土地は一時店晒しとなりました。

後に蓮如が加賀一向一揆を避けて戻ってきた後に富田荘の光照寺に一時滞在し、文明13年（1481年）に教行寺を建立して8男蓮芸を住寺としました。以後富田は本願寺門徒が集まり、寺内町が形成されるようになりました。

## 江戸時代の富田村の範囲

江戸時代の富田村は、富田町、昭和台町、寿町、栄町、川添町、牧田町、西町、柳川町、北柳川町、南総持寺、北昭和台町、大畑町、宮田町を含めた広い範囲を示しています。

江戸時代の富田村は幕府領と諸藩のめまぐるしい領主の変遷で、十数回の領主変更があった。江戸時代前期の富田については、富田寺内の中核となった教行寺の南と西には御坊内町、東には南岡町、北にはヨコ町・西之町があり、その北辺には東町・中之町・西之口町の三町が東西に続き、教行寺が再興されたのと並行して計画的に造成された寺内町の名残です。東町から西之口町にかけては、典型的な短冊型宅地割をとどめ、この地区が寺内町の商業地区として賑わっていたものと推定されます。

近世初期富田村の商工業を代表したのは、紅屋を中心とする酒造業の展開であった。江戸初期に紅粉屋（紅屋）市郎右衛門一門が徳川家康に商業の特権を安堵されて酒造を開始しました。そして富田酒は急速に名声を高め、延宝8年（1680）には24軒で8270石を造っています。これは富田村酒造業がもっとも盛んであったころの数字です。今も清鶴酒造と寿酒造が共に伝統の地酒を守り続けています。



## 富田のお酒

摂津の国、富田郷。富田の地名はかつてこの地で皇室御料の屯田が営まれていたことに由来します。優良米の産地で育成された良質の酒米と、石灰層を通して湧き出る阿武山々系の清水で醸し上げられたのが富田酒です。この地に酒造りが興ったのは 1471 年（文明 3 年）当時創建された永照寺の縁起の中に、酒造を生業とする好田宗信が檀家として尽力したとする記載があります。

時を下り豊臣・徳川の世には、酒造を生業とする蔵方十人衆と呼ばれる町衆組織が勢力を持ちます。中でも紅屋清水氏は、大阪の陣の功により家康から 1800 石もの酒造株が与えられました。『香味勝て宜し』と賞せられる富田の酒は、淀・阿武山の清水や米処としての地の利に加え、豊かな町衆文化により切磋琢磨されたもの。（清鶴の資料より）



## けさたと

「けさたと  
のめやあやめの  
とんたさけ」  
宝井 其角

この句は、芭蕉の愛弟子（蕉門十哲の一人）酒豪で知られた宝井其角がこよなく愛した富田酒を詠んだものです。上から読んでも下から読んでも同じ回文になっています。

## 酒 蔵

### 清鶴酒造（富田町 6 丁目）

富田のお酒が、屈指の「下り酒」として江戸の酒徒にもてはやされたのは、ひとえに『純で濁らず、香りの良さとコクが身上』であると讃えられ、ずば抜けて美味であったからに違いありません。創醸 1856 年（安政年）の清鶴は、現在最も古い歴史を持つ富田酒の醸造元となります。

清鶴酒造は、富田酒の伝統をかたくなに守り、いたずらに量産を図ることなく、手づくりによる酒造りを地道に続けています。繊細にして大胆。昔ながらの職人氣質で有名な但馬杜氏が、五感を駆使して手間暇惜しまず、我が子を慈しむように醸し出します。その技が目指すものは『甘』『酸』『苦』『渋』『辛』五味の調和そのものです。

口に含んで喉ごし良く、さらに香り高く、後味にふくよかな余韻がのこる……これこそが私たちの変わらない理念であり、皆様から高い評価を頂く『清鶴』の持ち味です。（摂州富田酒 清鶴のパフレットより）



### 寿酒造（富田町3丁目）

富田は、江戸時代前期に、良質の酒米と地下水を使って酒造りを行い、その名声は遠く江戸にまで聞こえていました。最盛期の明暦年間(1655～58)には、酒造家24軒が8000石余りを醸造。今も清鶴酒造と共に伝統の地酒を守り続けています。

### 教行寺（富田町6丁目）

蓮如と紅梅を思うお寺

富田、寺内町発展の中心部にあたり、現在では周辺の旧家や民家に囲まれコンパクトな境内になっているが500年以上という時代の変遷とともに波乱の歴史を経てきた重みを感じられるお寺でもある。安静山と号して真宗大谷派（東本願寺）に属する。1476年頃に本願寺八世蓮如上人の創建と伝えられ、一向宗（浄土真宗）の北摂エリア布教拠点となった。富田道場として隆盛を極めたが、天文元年(1532)の一向宗弾圧でほとんどが失われることになる。その後、弾圧を解かれた天文5年に再建され晩年の蓮如は再びこの地に訪れ布教に専念したようだ。蓮如上人が親鸞上人が記した「教行信証」をこの寺で書写したことから教行寺と呼ばれるようになった。信心熱い大阪屋仁兵衛が嘉永4年(1843)に上人ゆかりの築山紅梅の碑を境内に建てているほか、地元の漢詩人、坂田十松が詠んだ石碑もある。



その後、弾圧を解かれた天文5年に再建され晩年の蓮如は再びこの地に訪れ布教に専念したようだ。蓮如上人が親鸞上人が記した「教行信証」をこの寺で書写したことから教行寺と呼ばれるようになった。信心熱い大阪屋仁兵衛が嘉永4年(1843)に上人ゆかりの築山紅梅の碑を境内に建てているほか、地元の漢詩人、坂田十松が詠んだ石碑もある。

坂田十松・漢詩の碑

坂田十松（1894-1984）富田町の出身。高井半農に詩を学び、のちに、棚橋石翁に漢学と禅を学ぶ。のち、八木蓑香に「玉漁洋調」の詩を学ぶ。後年、数々の漢詩会を結盟し後進を指導する。著書に「十松百絶」がある。

### 普門寺（富田町4丁目）

釈迦如来と十一面千手観音菩薩

隣接する三輪神社はもと当寺の鎮守社で、臨済宗山号慈雲山、本尊釈迦如来明徳元年（1390）僧説巖の草創で、鎌倉建長寺末寺で、出家した細川晴元が入寺したことで良く知られています。晴元は永禄4年（1561）5月、三好長慶に近江朽木谷に潜居していたのを迎えられました。



晴元は永禄6年3月1日当寺で病没し、境内に晴元の墓と伝えられる宝篋印塔があります。元和3年(1617)に龍溪和尚が当寺に入り、約40年かけて方丈など、諸堂を建立し、当時は、隆盛を誇ったと言われています。明暦元年(1655)には、龍溪が明の高僧隠元禅師を迎え入れ、寛文元年(1661)山城宇治黄檗山万福寺に普山するまで留錫しました。龍溪も同年慶端寺に移り、寺は以後龍安寺の輪番所となりました。明治6年(1873)から住持が置かれました、その後無住の期間が続きました。方丈の西北側にある「池泉式枯山

水の庭園」は江戸時代初期、庭作りの名人、玉淵の作と伝えられ、観音補陀落山の庭といわれています。昭和の始めに専任住職がこられ、その後再興されました。昭和 52 年には方丈が国の重要文化財に、昭和 56 年には庭園が名勝の指定を受けています。また境内には、戒名「龍昇院殿前右京兆心月清公大居士」と刻まれ、細川晴元の墓と言われている宝篋印塔が建っています。2008 年には方丈の柿葺屋根のふき替え工事や山門の補修工事が行われました。

### 三輪神社（富田町 4 丁目）

大己貴命（おおなむちのみこと）を祀る三輪神社。  
大和国三輪山に鎮座する大神（おおみわ）神社から勧請したとされています。

大神神社は、奈良県桜井市にある神社です。式内社（名神大）、大和国一宮で中世には二十二社の中七社のひとつとされました。旧社格は官幣大社。三輪明神とも呼ばれます。

大物主大神（おおものぬしのおおかみ）を祀る。日本神話に記される創建の由緒や大和朝廷創始から存在する理由などから「日本最古の神社」と称されています。日本国内で最も古い神社のうちの 1 つであると考えられています。

富田の三輪神社はもとは普門寺の鎮守社とも、富田村の産土神（うぶすながみ）ともいわれています。

寛永 16 年（1639）に普門寺の龍溪禅師により再興され、寛延 2 年（1749）に社殿が修復されたことが、神社に残る奉加帳序や棟札からうかがえます。

富田は、江戸時代の初めに酒造りが隆盛をきわめ、24軒もの造り酒屋があったといい、三輪神社は酒の神様を祀る神社として人々の信仰を集めています。本殿、合の間、拝殿で構成される社殿や、灯籠、狛犬など江戸時代の建物や石造物がよく残っています。社殿・絵馬所・末社春日社は、平成 17 年 6 月 14 日に市の有形文化財に指定されました。

平成 18～19 年には、本殿の改修工事が行われ、本殿彩色復原調査が行われ、建設時の鮮やかな本殿に復原されました。



### 本照寺（富田町 4 丁目）

浄土真宗本願寺派、本尊 阿弥陀如来

本願寺七世存如、またはその常随式部生信が応永 34 年（1427）に開基したとされています。開基時の寺号は本遇寺で、のち光照寺と改号され、後継者として本願寺 13 世良如の弟、円従、良教を迎えることを懇願した為これを許し、本願寺の一字を与えて光照寺を本照寺としました。



本堂前庭に富寿栄之松と呼ばれる黒松がありました。冷泉為村が母麗樹院の五十回忌法

要を当院で営んだ際、老松に“富寿栄之松”と命名したものです。国の天然記念物で樹齢 600 年～700 年といわれ、庭全体に広がるほど大きな木でしたが、昭和 47 年（1972）頃枯死しました。現在は門前に残された樹根や切り株で作った直系 2 メートルの火鉢等でその壮大さを想像することができます。

平成に入り平成大修理が行われ、平成 20 年山門の修理で一段落したようです。前住職の日野照正先生のお話では、現在ではこれだけ大きい総檜の通し丸柱の本堂は立てられないでしょうとのこと。

### 筒井池（富田町 4 丁目）

もとは米作りのための溜池でした。富田の美田を潤したこの筒井池、別名「紅屋池」とも呼ばれていました。江戸時代、辺りは筒井池を挟んで、約 500 軒の町屋が連なり 2,000 人が暮らす大きな村でした。同時代の観光地図、摂津絵図によると、大きく筒井池が描かれており、造り酒屋でもある豪商、紅屋と隣接していたことに由来、紅屋の庭池にもなっていたようで、その別名ついたようです。昭和 40 年代までは筒井池（紅屋池）に映る美しい寺の姿として本照寺が紹介される写真が残っています。それによると、筒井池公園、富田支所と公民館など本照寺のそばまで広がる大きな池であったようですが、現在では、その大半が住宅事情のため埋め立てられてしまいました。周辺の溜池も次々と埋め立てられたため、溜池を造った先人の苦労に想いを込めて、地元、漢詩人坂田十松の命名によって筒井公園内に、その碑が建てられています。

### 清蓮寺（富田町 4 丁目）

浄土宗 本尊 阿弥陀如来

当初この地に念仏堂が建っていたが、地震で崩壊し、天正 12 年（1584 年）に紅屋清水利重が、良閑和尚を招いて創建したと伝えられている。

紅屋は江戸時代前期に隆盛を極め、富田酒の酒元として栄華を誇り、以来この寺は、清水家の菩提寺となってい



る。境内には樹齢 400 年といわれる老松があり、元禄 7 年（1694 年）造営された本堂、庫裏、鐘楼堂や、富田各地から集められた石仏などがある。また清水家の一族である入江若水の墓や漢文碑などがある。

### 入江若水の碑

漢詩人で漢詩集「西山樵唱」や「通俗両国志」を表す。荻生徂徠の門人でもあった入江若水（1671 年～1724 年）はもともと「亀屋」を屋号にする蔵元。京・宇治辺に移り住まざるを得なくなって、この地を離れる時に詠んだ歌。

## 富田の石地藏

富田には多くの石地藏が分布しています。正確な数は不明ですが現在のところ、平成 20 年富田自治連合健康推進リーダーが調査した結果、自治会の方々が管理している地藏尊は、16 地藏尊ありますが、これ以外に個人の家で管理しておられる地藏尊もあります。



富田の地藏尊は、その多くは化粧地藏です。化粧地藏とはお地藏さんをお守りする地域の人たちによって、お地藏さんのお顔にきれいにお化粧を施すところからそのようによばれています。このような風習は全国的にも珍しいようです。

## 大宅壯一顕彰碑

平成 21 年 5 月 30 日、「マスコミの帝王」大宅壯一顕彰碑が、富田町 6 丁目の生家近くの府道わきに建立されました。地元有志による「大宅壯一顕彰碑を建てる会」により、大宅壯一氏直筆の「美しいバラは野茨の根の上に咲く」という言葉が自然石(高さ 1.4 メートル、幅 2.7 メートル)の碑に彫りこまれ、生前の活躍を後世に伝えようとするものです。

顕彰碑説明板には下記が記載されています。

『大宅 壯一(おおや そういち)は、大阪府三島郡富田村(現高槻市)に生まれ、実家の醤油屋を手伝いながら富田尋常小学校に通った。

壯一氏は、当時から雑誌に作文や短歌などを投稿する文学少年だった。

旧制茨木中学(現大阪府立茨木高等学校)4年の時、各地で起こった「米騒動」を目撃し、その演説報告がきっかけで自主退学。(川端康成が一学年上に在籍していた)。

その後、超難関の「専検(当時存在した旧制中学卒業と同等資格)」に合格し、旧制第三高等学校を経て、東京帝国大学(現東京大学)に進学したが、執筆活動に傾注するあまり中退した。以降は本格的な文筆活動に入り、文学評論や翻訳を手掛けた。

「一億総白痴化」をはじめ「駅弁大学」「ロコミ」「恐妻」など時代をとらえた造語を数多く生み出しました』

## 富田の特産

### 富田の地酒

酒蔵の地元でしか味わえない酒があります。

### 富田漬

富田の酒蔵の「酒粕」と高槻の服部地区の農家で栽培された白瓜を古くより伝授された秘法をもとに白瓜の自然色沢を失うことなく、歯切れ至極軽快にして上品なうまさ大木富田漬を調整しています。



## 料亭 きんなべ

富田の老舗料亭です。優雅で気品高い佇まいと心尽くしの料亭です。

優雅な和風建築の母屋は、江戸時代約300年前の建物の骨格をそのまま残し、宮大工によって約50年ほど前に改修されたものです。お座敷の建物は、150年以前の庄屋時代の建物を改修したもので、天井は焼き杉の落ち着いた色合いの気品のある部屋です。

中庭には江戸初期からそのままの姿を留める富田の酒蔵と同じ水系の深井戸があります。井戸の上には1つ石を四角に切り抜いた石が置いて有りますが、中は円形の素掘（岩盤に見える）りのままです。今もその水が日本古来の庭園の滝水となって庭園に流れており、どのお部屋から見わたすことができます。

料亭では名物の「きんなべ（金の鍋）」で特性の鶏のスープと昆布だしを使った、厳選された近江牛（生で食べられる新鮮な肉を出すとのこと）のしゃぶしゃぶを、特製のタレで頂くことができます。また、銘醸の地、摂津・富田郷で特別に造られたオリジナルの純米吟醸酒「きんなべ」が出されます。

## 富田の仏具

寺内町の富田には昔には多くの仏具店があり仏壇を作っていました。今は秋政仏具店となっていますが、全て手作業で仏壇を解体し、洗濯している職場を見ることが出来ます。

## お菓子

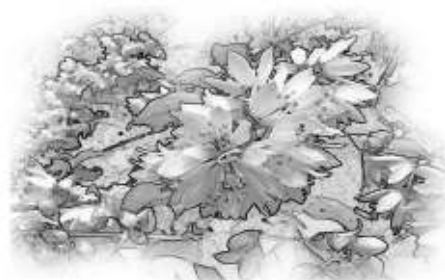
たらちね

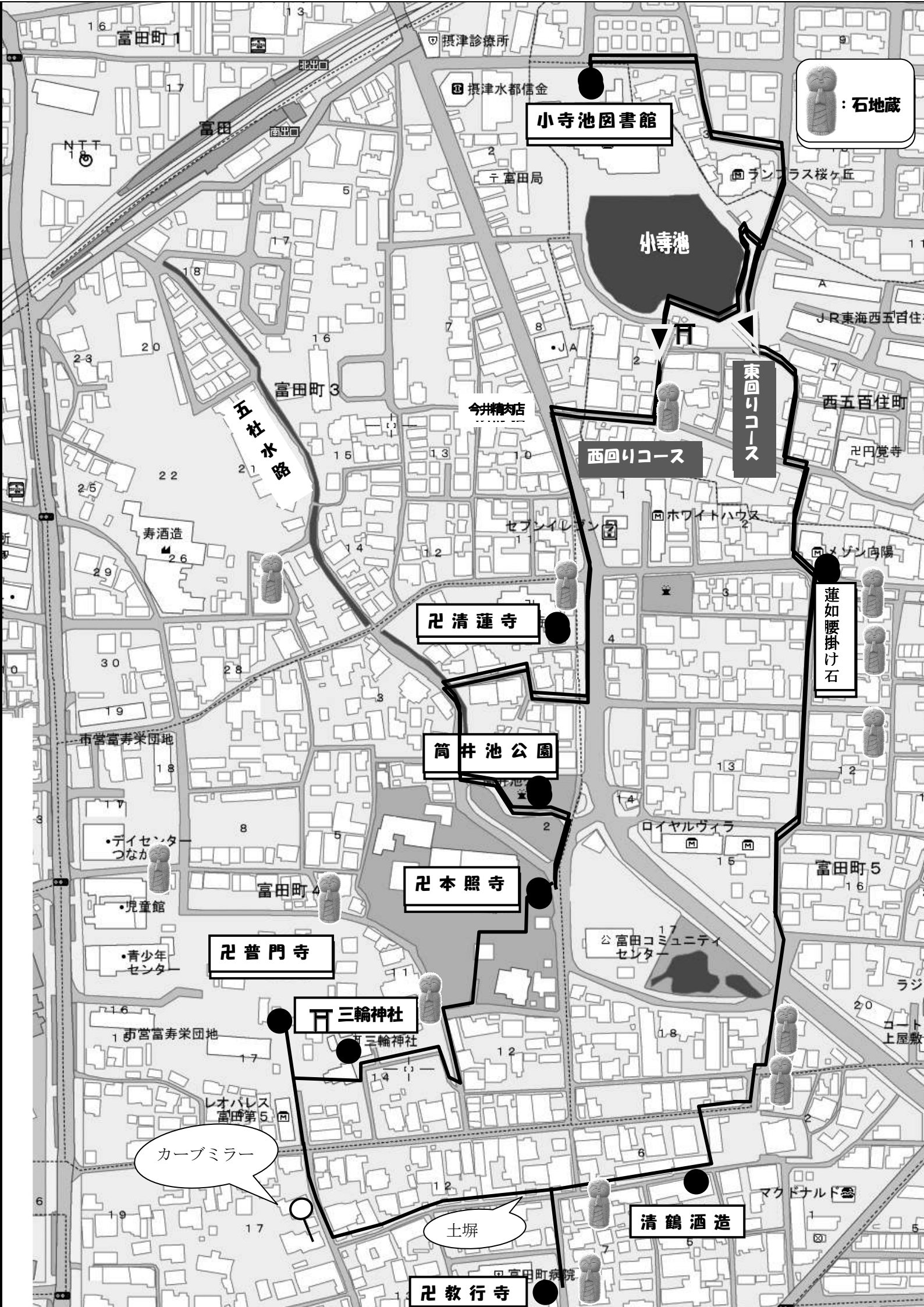
和風ピーナツクッキーです。砂糖、バター、卵、小麦粉など主な原材料は徹底的に吟味し、愛称のいい小粒のピーナツをたっぷり入れて焼き上げたお菓子です。今も人気なのは、健康にもダイエットにも効果のある寒天をせんべいに入れて焼き上げているからでしょう。

高槻市はかつて国内屈指の寒天生産地であった。寒冷法の遺産は現在、高槻市田能に引継がれ造られています。高槻に寒天作りを広めた美濃国加納藩主永井家の領主の宮田半兵衛の碑文は今も高槻市原字城山に建っております。

## 伊勢姫

なにはがた みじかきあしの ふしのまも あわでこのよを すぐしてよとや  
小倉百人一首に高槻の名刹、伊勢寺におられた伊勢姫様の歌にちなんで独特な製法により練り上げた村雨の和菓子です。





 : 石地藏

小寺池図書館

小寺池

東回りコース

西回りコース

蓮如腰掛け石

清蓮寺

筒井池公園

本照寺

普門寺

三輪神社

清鶴酒造

教行寺

カーブミラー

土堀

富田町1

富田町3

富田町4

富田町5

五社水路

寿酒造

ロイヤルヴィラ

富田コミュニティセンター

マクドナルド

摂津水都信金

富田局

今井精肉店

セブンイレブン

ホワイトハウス

メゾン向陽

NTT

市営富寿栄団地

デイセンタ つなが

児童館

青少年センター

市営富寿栄団地

レオパレス 富田第5

富田町病院

コート上屋敷

ラジ

コート上屋敷

コート上屋敷

コート上屋敷

コート上屋敷

コート上屋敷